

校長便り 自律



県立南風原高校
& 高等支援学校

平成30年 5月31日 (木)
校長 辻上 弘子
第 4 号

ごくごく自然に お互いに 社会に出ても通用するぞ

先日の高支企画 お昼時間の賑わうカフェで「こちら校長先生よ」とお母様からご紹介頂いたけれども、お祖母さまにきちんと挨拶できたかなと気にしながらその日の放課後を迎えました。カフェテーブルで話しこんでいる様子をたまたま目にした所から、ははあこの子の保護者か。部活後に薙ったばかりの芝生にて話しかけると「大丈夫ですよ、それといつも部活応援ありがとうございます」ナドとかえってこちらを気遣ってくれる。「妹がカフェの予定を伝えていたみたいで」本校に妹がおり親の来校に驚いたらしい彼は、今年2年目を迎える南風原高等支援学校の生徒なのです。最近の教育界では、障害の有無によって学ぶ場所が分けられるのではなく、一人ひとりそれぞれの子どもの能力や困りごとが考慮された、すべての子どものための教育という意味のインクルーシブ教育～「一人ひとり丁寧に」と「みんなで一緒に学ぶ」の両方の実現を目指す教育理念～についての話が盛んになされます。まさに本校が目指しているところです。南風原高校と南風原高等支援学校の生徒とが合同で体育や芸術科目等 また南風原高校の特色でもある郷土芸能の授業を一緒に、加えて学校行事や部活動も一緒に活動します。そうする事で生徒たちが壁無くスムーズに交流し、社会に出た時にお互いにこの経験と学びが生きてくるのではと思われます。職員にしても、個人差や国籍の違い等に配慮し全ての人を対象とされるユニバーサルデザインの授業を実践している方が多いです。障害のある人もない人も一緒にという本校生徒職員は最前線であり、しかも多くの学びと喜びを手に行っている大変恵まれてラッキーな環境にあると実感する日々でございます。

県高校総体 応援が選手の力に おかげで九州&全国派遣 多数

暑い中、多くの皆様方の応援をありがとうございました。とても喜びました。